

自然に
暮らす

遊んで、
学んで、
楽しんで!

設置店募集!

Sharing SN Nature Life

シェアリングネイチャーライフ

2021



VOL.

32

色が、 ない。

森の色あわせ

Nature
Game
No.

093

インタビュー

写真家
切り絵作家
いまもりみつひこ
今森光彦

Nature Game No.093

自然の新たな表情に出会う!〈森の色あわせ〉

Nature Game No.174

地球を丸ごとぎゅ〜っ!〈地球を抱きしめよう〉

<https://www.naturegame.or.jp/>

Contents

- 特集/森の色あわせ...p2
- 日置せんせいが教えてください! / インブットしてる?...p8
- SNLな仲間たち / 倉吉孝道さん...p10



自然に寄りそう 未来につなぐ
公益社団法人
日本シェアリングネイチャー協会



スポーツ振興くじ助成金を受けて
作成しています

右上・手前／『今森光彦の里山の切り絵』（世界文化社）、
左／『今森光彦のたのしい切り紙』（山と溪谷社）
ともに今森光彦著より



今森光彦さんの切り紙作品：
オオムラサキ

Sharing
SNature
Life

『シェアリングネイチャー』
それは、人が自然を尊重し、共生していく社会のキーワード。
公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会は
ネイチャーゲームをはじめとするシェアリングネイチャー活動ととして
“自然と遊び、自然から学ぶよるこびにあふれた生活、
——をおくる人の輪を広げる活動を行っています。

NatureGame No.

093

森の色あわせ

色紙などの色をもとに、自然のなかで色を探すネイチャーゲームです。
自然の色は、どれをとっても多様で複雑。
その色は季節や天気、時間帯などによっても変化し、ひとつの自然物に何百もの表情をつくり出します。あなたの近くの自然の、新たな表情に出会えるネイチャーゲームです。



SNL-vol.32特別付録〈森の色あわせ〉“春”カード

カラーコピーをしてご使用ください。

01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

色、合わない?!

紙の色じゃ足りない…
そこが、おもしろい!

一本のはさみで色紙を切り取って
生まれる昆虫、鳥、草木や花。羽
や葉っぱ、花びら一枚に至るま
で異なる色の紙が重ねられ、ひ
とつ一つの命がそこに息づいて

いる。今森光彦さんの切り紙作品を
見ていると、そう感じます。

「自然をお手本にして、人工物である
紙から色を選んで切り取り、貼りつけ
ているわけですが、紙に表された色と
自然の色はまったく違う。自然の色に
は絶対になわなない。いつもそう思い
ますね」と話す今森さん。こんなにも
美しく繊細な色遣いで細部まで表現さ

特集
interview インタビュー 写真家・切り絵作家
今森光彦さん
はさみ一本と色紙で、自然のなかで出会った感動、
生きものたちの命の輝きを表現する今森光彦さん。
〈森の色あわせ〉そのものとも言える
日々の作品作りのこと、
自然のなかでの色探しの楽しみ方について
うかがいました。



琵琶湖をとりまく里山の自然
と人との関わりをテーマに撮
影を続ける。第20回木村伊
兵衛写真賞受賞。切り絵作家
としても知られ、これまでに
発表した著書は『里山物語』
(新潮社)など300冊以上。

れ、今にも自然のなかに飛び立っていき
そうなのに?と驚きました。

「自然物は太陽の光のなかにあって初
めて色を放っています。たとえば葉っぱ
の色ひとつにしても、てかてかしていた
り、しっとりしていたりまったく質感
も違う、色の豊かさがわかります。もうひ
とつは逆光を通して透けて見える色。透
過光です。これが紙のチャートと違う点
そんななかで自分のつくりたいもの、一
番近い紙の色を選び取らなくてはいいけ
ない。そこがおもしろいところでもあり、
その不自由さを楽しんでいます」

今森さんの日々の作品作りは、今回の
特集ネイチャーゲーム〈森の色あわせ〉
そのもの。〈森の色あわせ〉は、18色
の色を配した「森の色あわせカード」(本

誌P10参照)や色紙を持って自然のなかに出かけ、カードにある色と同じ色のものを探します。色という視点で自然に集中し、自然界のあらゆるものが持つ色に注目。ひとつの自然物のなかにいくつもの色を見つたり、微妙な色の違いを見分けたり、到底見つかりそうにないと思っていた色が見つかったり…。同じ種類の植物や生きものでも、それぞれ色の個性を持っていて、その場所、その日、その時間ごとの自然の変化に気づくきっかけにもなります。家族や友人と一緒に活動したとしたら、それぞれの感性を共有することで、自然の色の世界はさらに鮮やかに感じられるでしょう。

「森の色あわせ」は、アイデアとしてとてもおもしろく、今まで自然に興味を持っていなかった人が、自然物を

認識する最初の手がかりになるのではと今森さん。

「僕は、生きものの正式な名前を知っているとか重要でなくて、この虫とこの虫は違うというように個の生きものとしてその虫や花を認識することが大切だと思っています。農家の人もそう。図鑑に出てくる正式な名前なんて知らない。みんな自分たちが名づけた愛称で呼んでいたりする。自分と自然、生きものと直接的なかわりを通して認識するからこそ、愛着もわく。〈森の色あわせ〉も同じように、個の色を見ていくことで、自分と自然の直接的なかわりを生むのではないだろうか」

今森さんの切り紙の作品を見ていると、同じ種類の虫でも違う色で表現されていて、個としてのかかわりが見えてきます。

「同じ生きものの種でも個々にバリエーションがあります。たとえば、生まれたばかりの虫と歳をとった虫では色が違っていたり、昆虫は本当におもしろいです！昆虫だけではなく、すべての生きものに言えることですね」

個として認識することが大事なのは、自然そのものをよく見る行為につながるからだとも。

「対象となる物を『見たい』と思って見る。漫然と見るのではなくてね。そうやって見たものは、視覚以外の感覚とつながって、受け止められる情報が増えます。切り紙の作品も、9割は野外でエッセンスをもらってきて、残りの1割をアトリエ内でつくるという感覚です。外ではデッサンもしません。野外で集中してすべての感覚を使って見る。そこからすべてが始まります」

「環境農家」はじめました！

滋賀県大津市出身。20代前半の頃、大津市街からもほど近い大津市仰木という地で、ある棚田の風景に出会います。琵琶湖のほとり、比良山を望む伝統的な農地。そこは、人とたくさん生物が隣りあって暮らす命が凝縮した場所でした。以来、仰木に通いつめ撮影、取材を続けながら、地元名士の紹介で1000坪ほどの土地を取得。今から35年前にアトリエを構えますが、今森さんがこの地でや

りたかったのは、仕事場を設けることだけでなく、日本の伝統的な里山環境の再現でした。

アトリエの裏山のヒノキ林は在来種の雑木林に変え、水田のあぜ道も昔ながらの農家と同じサイクルで手入れをし在来の植物を繁殖させました。年月をかけてチヨウが舞い草花や虫、鳥が集うようになったその地は「オーレリアンの庭」と名づけられ、里山の一角として生物多様性の一端を担っています。

さらに、5年前には新たに東京ドームほどの広さの農地を取得。農業従事者の申請をし、農家としての肩書も持ったのです。

20代でプロの写真家として撮影を始めた頃に出会った風景が1970年代後半からどんどん失われていく。その風景の一角を取り戻したい。また、子どもたちが地面に寝転んで、安心して土と戯れられる場所をつくりたい。そうした思いを原動力に40年余りにわたって活動をしてきました。

「自分も子どもの頃からそういう場所で行っていることを学んできたので。今あまりにもそうした場所が少なくなりました。そのために、農薬を一切使わず、害獣を防ぐための電気柵も全部撤去しました。自分が納得しながら自由に手をかけられる土地で、多様性を取り戻すために実験的に農家としてやってみよう。その意味で僕は『環境農家』と名乗って

る紙を使用しています。170色と限られた色のなかから、この色の隣にこの色を置いてみようと思ひ、色と色が融合してマッチングしたときの感動がとても大きいと言います。

多様な色を日々見つめてきた今森さんですが、好きな里山の色をして挙げるなら…と教えてくれた色は、新緑のころの「萌黄色」。

「あれこそ透過光。若葉が光を受けて放つ色です。もうひとつ、自然界の色の美しさを象徴する色と言えるのは、朽ちていく色ですね。樹が朽ちかけて、苔が生えているようなグラデーション。これは紙には存在しません。濡れた感じ、湿度感が出ないんですよ。それに、自然界にある黒にも驚きます。カラスって真っ黒に見えますが、間近で見ると羽一枚一枚の黒のバリエーションがすばらしいのひと言です」

小学校5、6年生の時には、200種類のチヨウをそれぞれの種が特定できるほど精巧に切り紙でつくれるようになっていたという今森さん。同じ頃、切り紙でつくった鳥を自然のなかに置いてみたことがあるそうです。

「自分では本物とそっくりにできたと思っていたのに、葉っぱの上に置いてみたら変に目立ってしまった。自然の色とは同じにならないんだと気づかされました。その時の光景は、今もはっきり覚えています」



「毎年同じ風景が季節のめぐりとともにやってくる。そんな風景が完成形ですね」

人と生きものが隣りあい、人が手をかけることで四季ごとに同じ風景がめぐる。そんな里山の風景を取り戻すため、環境農家としてのチャレンジが続きます。

カラスは本当に「真っ黒」か？

今森さんは切り紙作品制作の際、約170種類の色のバリエーションがあ

Report

滋賀県・仰木のアトリエで切り紙作品を前に。



アトリエのある仰木の棚田の風景（写真提供＝今森光彦）

色合わせで「第一発見者」になろう！

自然のなかでの体験や色探しをもっと楽しむコツはどんなところにあるのでしょうか。

「自分の行きつけのフィールドを持つのがおすすめです。週に一度、月に一度でもいい、定点で自然の変化を見ていくと、色はもちろん、すべての自然の変化もよくわかります。行きつけにする場所は、身近な公園でもいいんですよ」

自然観察会などで、講師を務めることの多い今森さん。その時に気を付けていることは「説明しすぎないこと」。説明、知識を得るのは家の中、机の上でできる。それよりも無数の情報が自然にはあつて、空にも地面にもその情報が飛び交っている。

るのに、そんなところで立って話をして聞いているだけなんてもったいないと思うからです。

「自分も含めて自然解説員やネイチャーゲームリーダーの方たちもきっと同じなのではないと思いますが、自分が子どもの頃、どんな風に自然の魅力を感じていたかという、原っぱで寝転がったり、虫を夢中で追いかけていただけ。そうやって培った自然観なんです。それはきっと理屈ではないはず。五感で感じ取ることを、一番大切にしたいです」

昆虫教室をはじめとした里山環境の体験の場では、「第一発見者になろう」をモットーとして伝えていきます。昆虫教室の3日間だけでも、子どもたちはどんどん変わっていくと今森さんは言います。

四季は分かれても、色のグラデーションはつながっている。

「自然界から『感性の栄養』をもらおうと言っています。これは自分が獲得し見つけていくもの。そのためにはマニキュアルにのつとつたシステムチックな方法に頼らずに、自分で考える時間、ストレスのない状態で自然を見る時間を大切に、ゆとりを持って楽しんでもらいたいです。親から離れて、自立心が芽生え、自然のなかでひとつの命に戻っていく。そんな子どもたちを大勢見てきました。そうしたチャンスをつくるという意味でもネイチャーゲームリーダーの皆さんに、自然とのかかわりの場をどんどんつくりたいと思っています」

「森の色合わせ」でも、初めて出会う美しい色、草花の斬新な色の組み合わせ、たくさん色の最初の発見者になれるような気がしてきました。

「自然の色のバランスは本当にすごい。たとえば一見派手な色の生きものでも、自然のなかに入ると周囲にとけこんでカモフラージュになったりします。それに、自然界には原色がほとんどなく、ほぼすべてが中間色。四季ははっきり分かれているけれども、そのグラデーションがずっと切れ目なくつながっている。『森の色合わせ』を通じてそうした自然界の色への発見、色の圧倒的な豊かさに気づく機会になるのではないのでしょうか」

たくさん命が生まれる春に、生きものたちが放つ色にふれ発見できるのは、どんな色、どんなことだろう。この色が次の季節にどんな変化を見せてくれるのか。『森の色合わせ』は、これから私の月一、季節ごとの定番になりそうです。

コロナ重点型オンライン安全対策セミナーに参加して

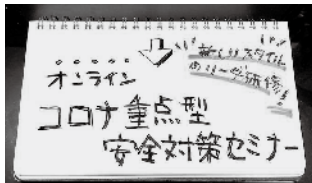
2020年11月22日
宮川 知之（東京都）

Event Report 1

コロナ禍で安全対策踏まえて活動するという大きな課題を抱え、情報の氾濫もある今の状況下で必要なセミナーでした。

活動で想定される安全管理に関わる場面を設定し、仲間と意見を出し合い、正しい情報や出来る対応を皆で共にわかちあひながら進みました。安全対策についての肝は「話し合い」と「すり合わせ」。

このセミナーを通じて、客観的な整理が出来たことは大きな収穫でした。



新井利佳トレーナーのオンラインオリジナルプログラムに参加して

2021年1月10日
松本洋子（香川県）

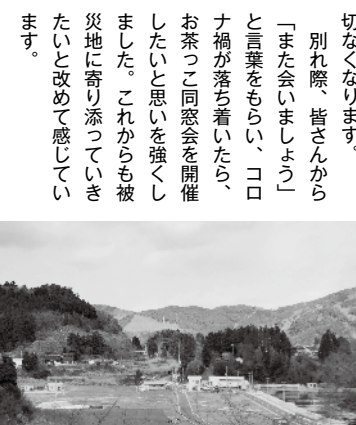
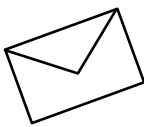
Event Report 2

「小学生へのネイチャーゲーム実践の技と知恵」と題し、小学生の実態や、視線を集中させるコツ、教科単元の目標に添った実践など、私の「知りた」がギュッと詰まった充実の内容でした。家の中にある物を使つてのジャンケン、寒かったけど屋外での体験も楽しめた（サウンドマップ）。コロナ禍でもできるオンラインネイチャーゲームの新たな可能性も感じられました。全国のネイチャー仲間とつながれ、元気をもらいました。



災害支援活動メーリングリストのご案内

被災地復興支援情報を配信します。登録をご希望の方は下記までご連絡ください。
tunagarou@naturegame.or.jp
(担当:佐々木、草刈)



東日本大震災から10年を迎えて

去田ゆかり（宮城県協会）

2021年1月、3年ぶりに、かつてお茶つ広場を開催していた石巻市雄勝町の懐かしい顔に再会してきました。

元氣な皆さんに会えた一方で、施設に入つた方もいると聞き、時の流れを感じました。雄勝の中心部は、津波の被害にあつた硬伝統産業会館が再建・オープンし、様変わりしています。しかし周辺は工事資材が高く積み、工事車両が頻繁に行きかう復興半ばの現状です。やっと再開したお店が、今度はコロナの影響で閉店してしまつたり切なくなります。

別れ際、皆さんから「また会いましょう」と言葉をもらい、コロナ禍が落ち着いたら、お茶つこ同窓会を開催したいと思いを強くしました。これからも被災地に寄り添っていきたいと改めて感じています。



日本協合理事会報告

- 臨時総会報告
コロナの影響により運転資金が足りなくなる予想から、長期借入金（2000万円）の承認がされました。
- 日本協合理事会報告
臨時理事会及び2020年度第2回理事会にて以下の議案が承認されました。

2021年度正味財産増減予算（単位：千円）

I 一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
(1) 経常収益	
① 基本財産運用益	0
② 受取入会金	476
③ 受取会費	25,217
④ 事業収益	76,167
⑤ 受取補助金等	2,760
⑥ 受取寄付金	350
⑦ 雑収益	5
経常収益計	104,975
(2) 経常費用	
① 事業費	98,282
② 管理費	6,693
経常費用計	104,975
当期経常増減額	0
2. 経常外増減の部	
(1) 経常外収益	0
(2) 経常外費用	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	0
一般正味財産期首残高	41,903
一般正味財産期末残高	41,903
II 指定正味財産増減の部	
当期指定正味財産増減額	0
指定正味財産期首残高	0
指定正味財産期末残高	0
III 正味財産期末残高	41,903

News

- その他の議案
 - ・2020年度補正（事業計画／予算）
 - ・2021年度事業計画
 - ・2021年度の専門委員会委員の委嘱
 - ・2021年度スポーツ振興くじ助成金交付申請
 - ・地域実践団体の解散
- 解散
大阪府 大阪城公園ネイチャーゲームの会
埼玉県 鶴ヶ島シェアリングネイチャーの会
東京都 王子シェアリングネイチャーの会

助成金活用報告

令和2年度はスポーツ振興くじの助成を受け、下記の事業に取り組みました。

- 広報ツール（情報誌『シェアリングネイチャーライフ vol.29～32』／各種パンフレット等）の作成と配付

専門委員会報告

- 指導者養成委員会-11月19日（木）
 - ◆2021年度全国研究大会についての検討
 - ◆フォローアップセミナー 2021についての検討
 - ◆来年度の指導員報についての検討
 - ◆各種研修講座についての検討
 - ◆リーダー養成講座検討チームの設置について
- 他

オンライン開催！第31回全国ネイチャーゲーム研究大会in神奈川2021

『出会う・ふれあう・学びあう、いいじゃん神奈川』

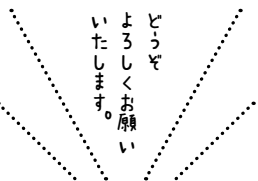
- 日程：2021年6月5日（土）、6月6日（日）
- 形態：ZOOMを使ったオンライン開催（後日映像視聴可）

※詳細は、日本協会HP「わたしたちについて」、または同封のチラシをご覧ください。

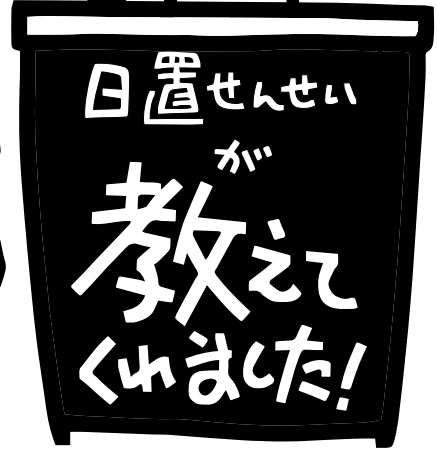


寄付のお願い

新型コロナウイルスの影響を受けて、経営的にも大きなダメージを受けました。シェアリングネイチャー活動の未来を支えていただく皆様からの寄付をお待ちしております。



インプット してある？



日置光久 (ひおき みつひさ) ・監修

東京大学特任教授。元・文部科学省視学官。
日本シェアリングネイチャー協会理事。

縄文人の特質開花!!
ネイチャーゲーム

取材・文／大武美緒子
イラスト／いのうえみさお



kusakani
ネットとか...
インプット
毎日しているよ...

知 識や情報を得ることをインプット、それを音声や文字で表現することをアウトプットと言います。インプットした内容に、人は自分の経験や価値観を関連付けてアウトプットしようとしています。インプットとアウトプットは直結しておらず、その間には必ず「スペース」が挟まれています。その「スペース」が、実は我々の「考える」というとても重要な働きを支えているのです。

森を切り拓いて稲作が始まった弥生時代以降、稲作作業の計画や稲の生産量の管理をベースにした社会の複雑化にともなう、大陸からもたらされた漢字を使った言語文化が花開きました。長い間、今につながる「文化」は、弥生時代から始まったとされてきたのです。

しかし近年、その前の時代「縄文」が再評価されています。貧富の差がなく長い間平和が続いた縄文時代には、火焔型土器や



アイコンタクトは「ノンバーバル言語」とも言われます。進化人類学では人間だけがもつ特徴として、「白目が大きい」を挙げています。白目は黒目を動かすためのステージで、目を中心とした顔の表情が周辺言語の役割を果たしているのです。

そういえば
アイコンタクトや
ジェスチャーで
気持ちを伝える
活動もあるなあ
これっ...



縄文系
ネイチャーゲーム!!



たしかに、
行き詰まったとき
散歩して自然にふれると
アイデアが浮かぶー

そう、それは
「縄文」が覚悟した
時間かも。

土偶などに代表されるような芸術性の高い文化が生み出されました。

言語文化、特に文字文化の発達で現代は非常に便利になりました。その一方で、あふれる文字情報にストレスを感じている人も増えたのではないのでしょうか。

縄文時代、人々は文字を持ちませんでした。文字以外の「言語」を発達させました。森のなかで獲物を至近距離から狙うために、仲間とアイコンタクトを取りながら、身振り手振りを駆使して情報の交換を行っていたのです。縄文時代は1万年以上あります。一方、弥生時代は1500年足らず。普段は意識していなくても、私たちの潜在意識には豊かな森、海の恵み、自然とともに生きてきた縄文人の資質が刻まれているのです。

ネイチャーゲームは感覚による自然体験のかたまり。そして、自然は諸感覚を使って、たくさんを感じ取らせてくれる巨大なインプット装置。自然は文字よりもはるかに多くのインプットを与えてくれるのではないのでしょうか。

現代の文字文化にストレスを感じていたら、豊かな森と海の恵みとともに生きてきた縄文人に、思いを馳せてみては？

きっと、すばらしいアウトプットが生まれてくるはずです。

縄文人に、なろうー!



体験することが
いいインプット
なんだ!

自分のなかの縄文を
覚醒させよう

地球を抱きしめよう

Nature Game No.174

対面コミュニケーションの場が減っている今、SNSなど文字情報に触れる時間が増えた方も多いと思います。感覚を集中させて目の前の自然と向きあうネイチャーゲームは、文字情報で疲れたり凝り固まってしまった頭の中に余白をつくり出します。地面に寝転ぶことで全身の感覚を使う（地球を抱きしめよう）は、自然に溶け込む感覚を味わえるだけでなく、リラクゼーション効果も高くおすすめです！最後は、認識している自然の枠をぐんと広げ、地球全体を思い描いて「ぎゅーっ」してみてくださいね！

【楽しみ方】

- ① お互いに声が届く程度の距離をとって広がり、仰向けで寝転がってリラクゼーションします。
- ② 深呼吸をして体の力を抜きます。「お日さまの暖かさ」、「周りから聞こえる自然の音」、「生きものの気配」など、自然を感じ取ります。
- ③ 今度は仰向けからうつ伏せの大字になります。
- ④ ②と同様に自然を感じながら、仰向けとの違いや、地面の下に広がる木の根や生きものたちにも意識を向けます。

※ 2人以上で行う場合は、リーダー役の人が「お日さまは暖かいですか」など声をかけながら進めてもよいでしょう。

地球も
抱きしめて
みよう!!



イラスト／いのうえみさお

ネイチャーゲームとは

1979年に米国のナチュラリスト、ジョセフ・コーネル氏により発表された活動です。見る・聞く・触る・かぐなどの感覚をつかって、自然を楽しむプログラムです。くり返し体験することで、自然と自分のつながりを意識することができます。



Sharing Nature Wellness

シェアリングネイチャー
ウェルネス



自然のなかで感覚を研ぎ澄ませ心を捉えるものを探し、「私は…」と言葉にしてみます。そのとき、あらゆる自然はあなたとつながり、豊かな気づきを得ることができるでしょう。パートナーと連れだって行くこともおすすめです。

わたしは山 イラスト/いのうえみさお

静かに静寂を保つ時、私たちと自然とを隔てていた壁は

取り払われます。『The Language of Silence』の著者である

J・アレン・ブーンは、このような深い体験をしています。

初対面のインディアンに初めて会ったとき、いつも目に見えない

儀式が執り行われる。

ネイティブアメリカンはブーンの前に立ち、いったいど

んな人間なのか、静かに彼の心の中を読みました。この、

心の声に耳を傾け、心のつながりを築く技術こそが、ネイ

ティブアメリカンが動物と会話できる鍵なのだとブーンは

言います。

〈わたしは山〉のエクササイズは、あなたの心をあらゆる

自然の心と結びつけます。この簡単な瞑想のテクニックは、

自然の中で目を引くものをさがし、その本質を心の中で感

じることによって、活動している人自身が、その気づきを

自分のものとするのを助けます。

心から自然や生きものとつながるとき、人は自分自身の、

そしてすべての自然の精神的な本質と触れることができる

のです。

『空と大地が私に触れた』より

Joseph Cornell
1950年米国生まれ。野外活動インストラクターを経て
1979年『Sharing Nature with Children』発表。以後、
世界的なナチュラリストとして活躍。当協会名誉会長。



ネイチャーゲーム新刊本
好評発売中!

小学校編、幼児教育編それぞれで、
ネイチャーゲームのやり方や
実践のポイントを詳しく解説!
イラスト入りですぐに実践できる!
超ノウハウ満載!!
子育て中のママ、パパにも♪

『アクティブラーニング実践書!』
体験と学びを深めるネイチャーゲーム
2,420円(税込)



zoom

2021年度 全国研究大会
in Kanagawa 神奈川

2021 6/5 SAT・6 SUN
日 時: 2021年6月5日(土)、6日(日)
形 態: Zoomを使ったオンライン開催
テーマ: 出会う・ふれあう・学びあう、いいじゃん神奈川

～みんなで創ろう
新しいカタチの 全国研究大会～

講演予定!!

ネイチャーゲーム創始者

ジョセフ・コーネル氏



参加方法、
詳細は
ホームページを
ご覧ください!



公益社団法人
日本シェアリングネイチャー協会

オンラインでの
プログラム
続々企画中
♪お楽しみに!

グレッグ・トレイマー氏

シェアリングネイチャー
ワールドワイドディレクター

シェアリングネイチャーライフ Vol.32
通巻113号
発行日 2021年3月15日
発行人 西澤信雄
発行所 公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会
〒160-0004 東京都新宿区四谷4-13-17ワークスナカノ2階
Tel. 03-5363-6010 Fax. 03-5363-6013 メール jimukyoku@naturegame.or.jp
編集: 草苺亜衣 デザイン・DTP: 花平和子 表紙消しゴムハンコ: 矢原由布子

編集後記

今号は念願だった「里山」をキーワードとした特集。自然のなかで色さがしをした時、どんな場所にいても、どんな色を見ても一瞬でリンクする色彩が、里山にはあります。(これって単なるホームシック!?)〈森の色あわせ〉が運ぶ自然との出会いが、皆さんそれぞれの大切な場所で、新たな季節をつないでいきますように。(草苺)



本誌掲載の記事、写真、イラストなどの無断掲載を禁じます。



復業公務員
ネイチャーゲームインストラクター
倉吉孝道さん
(福岡県)



まずは半径5m以内の
子どもたちを
笑顔にしたい!

「小中学校の運動会も、関わっている子に、来て!と言われるので、1日で5校ぐらいシフトを組んで回ります(笑)」

子どもたち向けの活動ネタを増やしたいというのがネイチャーゲームにかかわるきっかけでしたが、実際にやってみると、参加者同士で感じたことをふりかえる時間を大切にすることが「ほかのレクとは違う!」と手応えを感じたそうです。

ネイチャーゲームを知ってから、世界や自分とは離れた場所できていることも自分ごととしてとらえるようになったという倉吉さんの夢は、世界中の子どもたちを笑顔にすること。「いきなり世界は無理だけど、まず自分の半径5m以内の子どものことを笑顔に!」をモットーに、オンラインでネイチャーゲームイベントを開催するなどコロナ禍でもできることを実践中。若手と言われる倉吉さんですが、



くらさち(倉吉さんの愛称) だーと子どもたちに囲まれて、学校の方に不審に思われたり(笑)

「自分たちは今から次の世代につなげる意識で活動していきたいです」
その目はすでに先を見据えていました。

取材: 草苺亜衣
イラスト: 初澤久美

読者プレゼント!
アンケートに答えて
シェアリングネイチャーグッズを
ゲットしよう!

Present

応募締め切り: 2021年4月15日

① 今森光彦・著
『光の田園物語
—環境農家への道—』 2名様
特集でお話を伺った今森さんの著書。長年取り組む里山再生の記録を、美しい里山の自然写真、切り紙作品を交えながら贈るオールカラー208ページ! (2,750円税込/クレヴィス)

② 「森の色あわせ」カードセット 3名様
今号の特集ネイチャーゲーム〈森の色あわせ〉を楽しむカード3種を1枚ずつセットにしました。特集付録(本誌P.2)と合わせて、春の色を楽しみ尽くそう!(ネイチャーゲームショップ)

③ ネイチャーフレーム 2名様
季節の色をとり込んで長い時間楽しめる押し花用フレーム。お部屋に飾れば、おうち時間でも自然の色を眺めて楽しめる!植物の水分を吸い取る専用紙付属。(ネイチャーゲームショップ)

自然を楽しむグッズがいっぱい!

ネイチャーゲームショップ

検索

click!

